

ロシア政治劇震：プーチンがクレムリン離脱構想、メドベージェフ辞職

【訳者 Greatchain】プーチンは自分の支配を、あえて終わらせることによって、何を考えているのだろうか？ 彼ほどの深慮遠謀の人が、これによって起こそうとするのは、世界全体に深い影響を及ぼす何かであるに違いない。一つ注目すべき彼の発言として、プーチンは「多くの、西洋に傾くモスクワ人の立候補者を防ぐ」手段として、その資格制限を考えている、と言っている（4頁）。「西洋に傾く」とは、欧米のリベラルに同調する、という意味である。こんなことを言う世界の政治指導者は、彼以外にまず考えられない。彼がまず憂慮するのは、祖国ロシアの精神的腐敗であった。世界の誰もが、これを考えるべきではないのか？

私は、知将、人格者としてのプーチンを尊敬する。そして、今起こっている最も肝要なことが、何であるかを見極める人としてのプーチンを尊敬する。アメリカやそれに追随する世界のメディアは、その正反対の宣伝をしている。読者は、プーチンに対する「公開謝罪状」が、世界の有識者の中で広く出回ったことをご存知だろうか？

http://www.dcsociety.org/2012/info2012/161012_2.pdf

また、プーチンに喩えられたダイヤモンドバック（ス）の話を読まれたらどうか？

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180322.pdf>

プーチンが、ロシア恒例の「ヴァルダイ討論会」で話している内容を聞くならば、誰もが納得し、彼に対する信頼が深まるだろう。

Bryan MacDonald（アイルランドのジャーナリスト、ロシアに本拠、RT）

January 15, 2020



人の世の移り変わりは早いといわれる。見たところお決まりのような、State-of-the-Nationのウラジミール・プーチンによる演説が、思いがけなくも、最近のロシアの政治史で最も記念すべき午後の一つ変わった。

水曜日にロシア政府はあらかた辞職した。ドミートリ・メドベージェフは政治の第一線を退き、ウラジミール・プーチンは、彼の現職の終わりには大統領を辞し、ミハイル・ミシュースティンを、新しいロシア首相とすることを示唆した。バン・モリスンがかつて呟いたように、こういう日もあるということだ。

そしてまだ、1月も15日になったばかりだ。ロシア人が正統的クリスマスを祝ってから1週間、新年を祝って2週間しかたっていないのに、本物の仕事が早速始まった。

午前中、ミシュースティンは、ロシア以外ではあまりにも未知の人物だったので、彼は英語のウィキペディアのページさえ持っていなかった。そして、彼の国内でのプロフィールは、政務や行政の仕事以外の世界では、目立たぬものだった。



連邦税務局長ミハイル・ミシュースティンは、ロシア大統領ウラジミール・プーチンによって、次期ロシア首相を任命された。

しかし彼が有能な管理者であることは間違いない。ロシアの税務担当者として、彼は抜群の成功を収めてきた。彼の監視下で、歳入はほぼ20パーセント増加した——税負担そのものでは、たった2パーセントの増税だったにもかかわらず。実際、つい昨年、フィナンシャル・タイムズは、彼を〈未来のタックスマン〉と綽名して、彼がロシアの関税徴収システムを、世界で最も発達した、有効なものに建て直した業績を称えた。

これは、かつてこの国で、脱税がかなりひどく、国家的スポーツのようなものだったことを考えれば、決して小さな仕事ではない。

生粋のモスクワ生まれであるミシュースティンは、プーチンと同じ熱烈なホッケー選手だが、「ほとんど知られないロシアの政治家…官僚として仕事のできる人物」とだけ、説明されている。

しかし、同じような説明は、1999年のプーチン自身にも当てはまったはずで、それ以来、21年が過ぎている。

長いさようなら

きょう大統領は、クレムリンからの離脱の設計図を引き始めたが、それは多少とも権力の移行を進める第一歩である。彼は2024年には現職を降りるか、もっと早くそうするかもしれない。彼の意図は、この職にあってこれほどの支配を可能にした〈超大統領〉システムを壊すことである。これは1993年、ボリス・エリツィンが、戦車を用いて議会に火をつけた後、アメリカの援助を得て導入したやり方だった。

RT.COM 関連情報：「ロシア政府が、プーチン大統領による憲法改正提案の state-of-the-nation 演説後に、辞職」

プーチンの計画は、政権の後継者にもっと権力を与え、特に首相にはもっと権威をもたせることである。彼はまた、State Council (国務院) の役割を大きくすることを望んでいる。実際、彼はおそらく退職後、自分自身その立場で、ある種の〈長老政治家〉として終わるであろう。政府は、ロシア地区の首長と、議会の政権メンバーで構成されるだろう。それは一種のアドバイザーの機能を果たすと思われる。

こうした目標を果たすために、プーチンは、大統領の権力を縮小し、2期制の導入を望んでいる。これはクレムリンでの最大12年を意味する。彼はすでにそこに16年いた。より広い構想では、より厳しいチェックとバランスを期することで、大統領職は弱められ、他の政府分野は、強められることになる。

間違わないでほしい——プーチンの目標は、彼がエリツィンから受け継ぎ、その上で引き離したやり方を、保存することである。欠陥はいろいろあったかもしれないが、困難な分娩の後では、それはロシア人に、これまでに与えられた最大の自由と繁栄を与えるものだった。

過去の前例

プーチンの歴史上の位置は、そのとき、アメリカのフランクリン・ルーズベルトのそれとよく似たものとなるだろう。すなわち4期の大統領で、財政的・社会的な難局の後、国家を修復している。(ロシアの場合には、ソビエトの崩壊と、悲劇的な1990年代があった。)これはまた、モスクワのインサイダーが、よく指摘することと一致する——プーチンは歴史によく記憶してもらおうと思っている。これはロシアのリーダーにあまり与えられない地位である。

RT.COM 関連情報：「プーチンは、自分の地位を含め、ロシアの憲法に大きな修正を求め、人々は変化に賛成してほしいと言っている」

一つの顕著な提案として、将来の大統領は、職に就く前に、ロシアに継続25年居住しており、外国のパスポートや居住許可を取ったことがない、という条件がある。これによって、**多くの、西洋に傾くモスクワ人の立候補を、防ぐことができる**だろう。大量のロシアのリベラルで、どの時点かで、外国に住んだことのある者については、言うまでもない。面白いことに、もしこのルールが2000年に存在していたら、ウラジミール・プーチン自身が、ロシアの大統領になることはできなかつただろう。彼はドイツに、1985年から1990年まで住んでいた(国家の義務だが)。

この提案されている変化は、幅広い合意を確かなものにするために、公的な投票の行われた後で、実現するものと思われる——たとえ「ロシア連邦議会」(Duma)での通過が可能であっても。うわさによると、それは9月になるかもしれない。

プーチンはまた、きょうのスピーチで、多くの国内問題に触れた。彼は、教師の給料の増加と、より多くの子どもケア施設を約束し、最初の4学年の子供たちのために、無料の温かい昼食案や、48か月間の、延長された子供福祉案を紹介した。

メドベージェフについて言えば、彼は放り出されたのではない。そうでなく、この前首相は、半儀礼的だが依然として威信ある役——彼がプーチンと共にロシアを治めた12年間の〈タンデム〉役——を終わらせる役割を与えられた。彼のことを、政治的に終わったと言うのは間違いだろう。しかし、もし彼が再び同じ政治権力を振るうことになったら、これは大きな驚きであろう。

彼らが握手をしたとき、そしてメドベージェフが、首相として最終的にクレムリンを去ったとき、プーチンは彼に言った——「すべてがうまくはいかなかった。しかし、すべてがうまくいくようなことは、決して起こらないものだ。」

<https://twitter.com/27khv/status/1217467191924228096?s=20>

にもかかわらず、プーチンは「すべてがうまくいくこと」を、ロシアの究極の権力推移のために、希望するだろう。それが今起こっている過程である。

——以上